



お芝居デリバリー まりまり・NEWS

岩手県
釜石市・大槌町・山田町
公演の記録～

2012年1月20日発行
発行元 お芝居デリバリーまりまり
http://white.ap.teacup.com/marimari/

2011年10月15日(土)～2011年10月21日(金)の一週間、
私達、「お芝居デリバリーまりまり」のたま・とも・ムツシユの三人は、岩手県の釜石市・大槌町・山田町へ昔話のお芝居を届けに行つて
来ました。この新聞では、私達三人の現地での活動と、そこで「何を観て、何を感じたのか」をご報告させていただきます。

被災地公演のきっかけ・・・



左上から、たま(高木雅代)、
とも(大内智美)、ムツシユ(鎌田貴嗣)

岩手は、私達まりまりにとって特別な場所です。まりまりのメンバー、とも
の生まれ故郷でもあります。それが
縁で交流が始まりましたが、何度も公
演に訪れ、色々な人達と出会い繋が
っていく中で、いつか3人それぞれに
とって、とても大切な場所になってい
ました。

3月11日の大震災から、私達は「自
分たちに何ができるのか」を、それぞ
れが考え続けていました。

そんな時、6月に岩手県釜石市を訪
れたムツシユから、「まりまりの芝居
をこの地に届けたい」と、たま・とも
に電話がかかってきました。それをき
っかけに、このプロジェクトは始動し
ました。

10月15日(土)

沿岸部に下見に行ってきました。

この日は、三人で初めて、被災地と公演先の下見に行きました。
まず、釜石市に入って、現地を見た時、たま(高木雅代)が思った
ことは、「100年以上経った町みたい・・・」。海水にさらされた車
や金属は、真っ赤に錆びて、家々は土台だけが残っている。私達三
人は言葉も交わさず、その地を黙々と歩いていました。高台から町
を見下ろした写真です。ここに、半年前まで、多くの人たちの生活
があった・・・。今回の沿岸公演で「私達に何ができるのか」、改
めて突きつけられた思いでした。私たちは、当事者ではありません。
その私達に出来ることは何か。また、私達だからこそ届けられるも
のとは何か・・・。「でも、子どもたちは元気ですから。」その後、下
見に行った保育園の先生は、私達にそう話してくれました。

そうだ、できること
は限られているけど、この公演の一つ
一つを大切に、見てくれた人にも、
「いい出会いだっ
た!」と思ってもら
えるような公演に
したい、心からそう
思う。



～龍昇殿公演のチラシより～

『こんなに酷かったとは・・・』 鎌田 貴嗣(ムツシユ)

6月13日夜、思い立って池袋発、釜石行
きの深夜バスに乗り込みました。
「とにかく一度、この眼で見なければなら
ない」という思いだけを持って。

現地に行けば、自分がやるべきことも自
ずとわかるだろうと。翌日、打ち崩された
街を、家々を前にして、私はただ立ち尽
くしてしまいました。

こんなに酷かったとは・・・。
言葉も失い、ただ歩きました。



ある避難所の横を通りかかった時、私の眼に飛び込んできたのは、幼稚園
の庭で走り回って遊ぶ子ども達の姿でした。その明るい声に、どれ
だけ救われたかわかりません。

「まりまりの芝居をこの子たちに届けに来よう」

そう決心しました。

今回私達は、釜石市鶴住居の保育園から始まり、大槌、山田の幼稚園・
小学校・知的障がい者施設など、特にその中でも文化的サポートの行き
届かない小さな場所を、ボランティアで巡ります。

皆様のご来場心よりお待ちしております。

【龍昇殿公演チラシより抜粋】

まりまり公演スケジュール

今回の公演スケジュールです。
毎朝5時起きで、奥州市から
沿岸部に通う日々でした。



- 10/17(月) 奥州市・龍昇殿にて、まりまりへの活動支援公演
- 10/18(火) 奥州市・水沢保育園、福寿荘にて公演
- 10/19(水) 釜石市・鶴住居保育園にて公演
- 10/20(木) 釜石市・小川幼稚園
大槌町・浪板交流促進センターにて公演
- 10/21(金) 山田町・わかき保育園
山田町・大浦小学校にて公演

10月17日(月) 龍昇殿公演

龍昇殿公演には、まりまりの今回の沿岸公演に賛同してくれた
方々が集まってくださり、その入場料を沿岸公演の活動費として
使わせていただきました。また、会場は奥州市の駒形神社龍昇殿
を無償で提供していただきました。「胆江ゆめネットワーク」の皆
様が声掛けをしてくださって、当日は120名を越える方がお越
しくございました!本当にありがとうございました!!



- 花咲かじいさん【とも・たま】
- 岩手山と炬神山【ムツシユ・たま】
- 朗読【たま・とも・ムツシユ】
- 泣いた赤鬼【ムツシユ・たま】
- 桃太郎【とも・ムツシユ】

昔話では、いつも通りのまりま
りのお芝居を、朗読では、私達
三人それぞれの思いを作品に
して届けました。芝居を観て、
子ども達が笑い転げたり、涙
む方がいたり、また、「私たち
にも支援する機会をつくって
くれてありがとう。」「たくさ
んのお笑顔を届けて来て。」とい
う言葉をかけられ、勇気づけら
れました。



「桃太郎」より 「泣いた赤鬼」より

～龍昇殿アンケートより～

- 一人一人の出来ること、どんな小さなことでも、そして、支援す
る人を支援することなら誰にでもできること。私も何かの力に。
- 近くにいながら何もしていない自分がはがゆい。まりまりを通し
て少しでも力になれば・・・と思います。
- 人と人とのつながりをどうとらえるか、改めて考えました。明日
が来る限り人はまた自らモノをつくり生きて行こうとするのだ
ろうと思えました。
- 被災地の子どもたちが必ずまりまりの芝居で笑顔を見せてくれる
と思います、心の支援は大切な事ですね。
- 悲しみ苦しみを心の中に押し込めて頑張っている人たちが、ほっ
として、笑い、涙が流せるように・・・。
- 子供たちの心に、元気の花を咲かせてください。

10月19日(水)午前 釜石市・鶴住居保育園



沿岸での初めての公演は、鶴住居保育園。震災以降は海から離れた場所へ移った園児40名ほどの保育園。まりまりが来るのを楽しみにしていたという男の子が、朝、保育園に来るなりフルパワーで走り回っている。「おかげで準備がすまねーよ。」とムツシュは二ヤケ、ともちゃんは、BGMの音楽に合わせてゆるゆると踊っている。たまは、「クワガタの虫

籠」が気になって仕方がない・・・三人共、来る前までは少し気負っていたが、子ども達に会って、肩に力が入らずに、いつも通りでいられた。子ども達は本当に元気で、そして明るかった。

公演後、仮設で暮らしている園児のお母さん方とお話をする機会があった。

「小学生達に見せてあげて欲しい、あの子ども達は波を見て(大きなショックを受けて)いるから。」という言葉が切実だった。私達でいいならぜひ行きたい!さて、公演が終わってトイレに行ったムツシュ、トイレ中に、「また来いよ!」と男の子からしきりに言われたらしい。



10月21日(金)午前 山田町・わかき保育園

山田町は、私達の沿岸部公演をずっと支えて下さった、菊池千賀子さんの故郷。千賀子さんに「まりまり、いつか山田町に来てね。」と言われてからずっと来たかった場所だった。

さて、このわかき保育園は、千賀子さんの同級生の方が園長先生。園は流されてしまい、今は山の上のお寺の



「虹」
庭のシャベルが 一日ぬれて
雨があがって くしゃみひとつ
雲が流れて 光がさして 見上げてみれば
ラララ にじかにじかに 空にかかって
君の君の 気分も晴れて
きっと明日はいい天気 きっと明日はいい天気

一角にある。園児は15名ほど。今回の公演は園児以外に、地域のお年寄りの方や、障害をもった方も一緒に観劇。公演のお礼にと、子供達が、めいっぱい歌と踊りのおもてなしをしてくれた。左の歌詞は「虹」という歌。園児達が、一生懸命歌う姿に胸一杯になった。小さな命っていうのは、体は小さいのに、存在は大きい。ともちゃんが、「この子ども達が、新しい山田を作っていくんだと思った。」と言う。

10月20日(木)午前 釜石市立小川幼稚園

今日は、ともちゃんがお休み。というわけで、たまとムツシュの二人公演。下見の際「震災で親を亡くした子もいて、しばらくは大変だった、最近やっと落ち着いてきた。」と園長から伺っていた。

さて、この日の子ども達は、私達保育園に着いたときから興味津々。



子供を見てハイテンションになったムツシュが子ども達と外の遊具で遊び始めた・・・「ムツシュ!!!」昇り棒を昇り切ってボス猿みたいになり、子供たちを煽っているムツシュを、たま一喝。ムツシュ、しばらく戻ってくる。さて、この幼稚園の子ども達はとにかくノリがよい。ノリが良すぎて、最初のうちはワイワイして芝居どころではない。しま

いには、先生に怒られて半べそ(笑)。とにかく元気で、エネルギー満ち。この幼稚園には、知的障害・発達障害のクラスがあり、その子ども達も一緒に見てくれた。実はこの幼稚園は今年度いっぱい閉園となる。

そんなこともあり「子ども達に楽しい思い出をつくって欲しい」と言われていた。楽しい思い出になっただろうが、帰りに子ども達が書いた絵の入ったお守りももらった。これを持っていると長生きするらしい。

10月20日(木)午後 大槌町・浪板交流促進センター

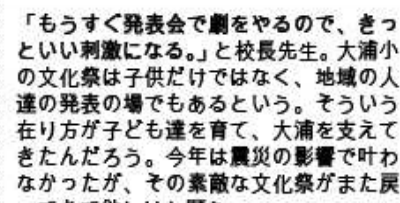
「津波以降、引きこもりがちなお年寄りに見せたい」という要望があったコミュニティセンター。センターの館長さんが、近隣の家に一軒一軒チラシを配って宣伝してくださった。その甲斐があって、この場所を紹介してくれた大槌町教育委員会の山崎さんが「こんなに集まるなんて!」と驚くほど集まってくれた。脚の不自由な方が来てくれたり、ゲートボールを切上げて来てくれたり、仮設に併設されている高齢者施設の職員が「芸を盗みに来たよ!」とやって来たり、様々な人が観に来てくれた。

下見の日に「必ず行きますよ」と言ってくれた方が、素敵な服装でいらしゃった。ムツシュがそれを見て嬉しそうに、「そうだよ、芝居はオシャレして観に来るもんなんだよ!」と言う。そういう機会を作れただけでも良かったと思う。終演後にかけられた「久しぶりにこんなに笑ったよ。」「もうちょっとみたかった。」という言葉が嬉しかった。

10月21日(金)午後 山田町・大浦小学校



大浦小学校は、千賀子さんの母校。もともと山の中にあるので、学校は無事だった。生徒は全学年で38名。シャイだけど、挨拶をすると照れながらもはっきり挨拶を返してくれる生徒達。生徒以外にも(仮設住宅も含め)高齢者の方々も集まってくれた。



写真一番左が、菊池千賀子さん右が、高橋達夫校長先生

沿岸公演アンケートより ~みなさんからの声をご紹介します~

- 【保育園・幼稚園 他】
- いろいろつらいことがあったけれど、子ども達の実顔がみれてよかった。
 - もつといういろいろな人に見せたい。このお芝居で笑顔になれる人はたくさんいるはず。■ぜひ小学生にみせたい、絶対大笑いだと思う。■表現が面白く、子ども達もひきつけられて、真似をしていた。■日々笑うこともあまりないので、笑うことが出来、毎日の疲れがプツ飛んだ。絶対絶対また見たい。■高齢者の方も元気がもらえた。■今後も被災地のたくさんの人を元気づけてもらいたい。■(障害者施設の)学園の皆にみせてやりたい。■ポスターにあったとおり、どの年齢でも楽しめた。■子ども達も、どんどんお芝居に引き込まれている様子です。
- 【小学校】
- 何もつかわずにやっていて、すごいと思った。頭でそうぞうできなし、また見たいと思った。■びんぼう神のはたらいているところがおもしろかった。■次来たら、違う話をしてほしい。■大浦小の劇で、大きい声で、アクションも大きくやりたいと思った。■なにもつかわないでお芝居をやるので、ぼくもやってみたいと思った。■学習発表会で、けらい役なので、えらそうに演じたいと思った。■短い時間だったが、3時間のミュージカルで感動する以上の感動を与えてくれた。子ども達にとって素晴らしい体験になった。 ~他多数

絵本を保育園2か所に贈りました。



今回、龍昇殿公演の入場料の一部を使って、保育園2か所に、絵本を贈らせていただきました。支援して下さった皆様へご報告致します。

お芝居デリバリーまりまり (たま・とも・ムツシュ)

【編集後記】

今回の公演を迎えるまで、ずっと抱えていた思いがありました。「僕らの芝居が沿岸の人達の力になれるのか。」被災地に関わろうとした時、僕らは芝居を選びました。それで良かったんだと思います。「ささやかでも僕らにやれることは確かにある。」芝居をしなごは僕は、そう感じていました。それぞれがそれぞれのやり方でいいんだと。「また来いよ!」と言われたからではありませんが、また行きたいと思っています。

【お芝居デリバリーまりまり ムツシュ】